

自己評価書 (令和2年度)



しせい



あいさつ



そうじ



くつをそろえる

令和2年

鳴門教育大学附属特別支援学校

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属特別支援学校
- (2) 所在地 徳島市上吉野町2丁目1
- (3) 学級等の構成
小学部 3学級(複式)
中学部 3学級
高等部 3学級
- (4) 児童生徒数及び教員数(令和2年5月1日)
小学部18人, 中学部18人, 高等部23人
児童生徒数59人
教員数30人(正規教員数)

2 目的

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属特別支援学校校則第1条において「知的障害及び自閉症の児童生徒に対して、小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を施し、あわせて障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授ける」と定めるとともに、同条第2項では「幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の要請に応じて、幼児、児童又は生徒の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努める」と定めている。

また、校則第1条には「鳴門教育大学(以下「本学」という。)における児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には国立教員養成大学の附属特別支援学校として、次のような使命をもった学校でもある。

- ① 大学と一体となって、特別支援教育の理論及び実践に関する科学研究を行う使命
- ② 大学の学部学生及び大学院生の教育実習及び教育実践研究等を行う使命
- ③ 地域において特別支援教育のセンター的機能を実践的に発揮するとともに、本県の教育の発展に寄与する使命

(2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている目的の達成のため、学校として、また各学部としてそれぞれ次のような教育目標を掲げている。

<学校教育目標>

児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、教職員が協働し、児童生徒一人一人の特性や発達段階に即し、将来を見据えて教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、他者を大切にしながら、健康で豊かな生活を送ることができるよう児童生徒を育成する。

<小学部>

- ① 豊かな心、じょうぶな身体を育てる。
- ② 日常の基本的な生活習慣を身に付ける。
- ③ 興味関心を広げ、自ら取り組む態度を育てる。
- ④ 人とかかわる基礎的な力を育て、集団での活動に参加できる態度を養う。

<中学部>

- ① こころとからだの調和のとれた人間力を育てる。
- ② 自他共に大切にできる態度を養う。
- ③ 生活に生かすことのできる知識や技能の向上を図る。
- ④ 個々の「参加」の質を高めて、生活を豊かにする態度を育てる。

<高等部>

- ① 心理的な安定を図るとともに、働くため健康な身体と青年期の豊かな心情を育てる。
- ② 主体的に働く意欲や態度、集中力を養う。
- ③ 将来の社会生活に必要な言語・数量に関する基礎的学力および生活技能を養う。
- ④ 人とかかわる中で社会性を身に付け、自ら生活を楽しむことができる力を養う。

(3) めざす子ども像

本校では、学校及び各学部の教育目標に基づき、それぞれ次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

<学校全体>

- 明るく、仲よくできる子ども
- じょうぶで、元気な子ども
- よく働く子ども
- 力いっぱいがんばる子ども

<小学部 めざす児童像>

- 心と身体の健康向上に取り組むことができる児童
- 身の回りのことが、必要な支援を得てできる児童
- 学習活動に興味を持ち、主体的に取り組むことができる児童
- 人との関わりを大切にし、集団活動に進んで参加することができる児童

<中学部 めざす生徒像>

- 健康な身体と調和のとれたところを持つ生徒
- 他者とかかわることを楽しめる生徒
- 学びや体験をとおして「分かる」「できる」「こうすればいい」ことを自分から見つけられる生徒
- 自らの興味や関心、楽しみを広げ、様々な生活場面に参加できる生徒

<高等部 めざす生徒像>

- 身体と心の健康に気をつけて、人や自然を愛することができる生徒
- 進んで働こうとする意欲やチャレンジ精神をもつことができる生徒
- 自分でできることは自分でして、できないところは支援を求めることができる生徒
- マナーやルールを守って積極的に社会参加をしようとする生徒

令和2年度の重点目標

①学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた新しい教育課程の編成、実施及び研究を推進し、児童生徒の障がいの特性や発達の状態を考慮した適切な指導と必要な支援を充実し、主体的・自立的な児童生徒の育成に努める。

②学校HP、一斉メール、文書、対話等を通して情報を送受信し、学校・家庭・地域や関係機関等との連携を深めるとともに、キャリア教育等の充実を図るなど開かれた教育課程の実現に向けて取り組む。

③特別支援教育のセンター的機能を地域のニーズに即して実践的に発揮し、教育相談や研修等の機会や内容を充実させ、地域や徳島県における特別支援教育への貢献度を高める。

④危機管理マニュアルの見直しや教室等学校施設の点検整備の推進、充実を図り、家庭や地域、関係機関等と連携した安全・安心な教育環境を整備するとともに、児童生徒が様々な変化に向き合い、複雑な状況変化の中で他者と協働して課題を解決したり、目的を再構築したりしようとする態度を育成する。

令和2年度学校重点目標及び各学部各校務課の重点課題

- ①学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた新しい教育課程の編成、実施及び研究を推進し、児童生徒の障がいの特性や発達の状態を考慮した適切な指導と必要な支援を充実し、主体的・自立的な児童生徒の育成に努める。

<中学部>

- 1) 基礎的な環境整備と合理的配慮を充実させる。
- 2) より妥当性の高い中心的課題を生徒個々に設定し、学部教員共通理解の下で教育活動を行う。

<高等部>

- 1) 高等部の学習指導要領改訂を踏まえ、学校研究と関連性を持たせ関係機関との連携を図り強化しながら、生徒の卒業後の社会的・職業的自立を目指して、教育課程の検討を行い、実情に即した授業づくりを行う。
- 2) 生徒一人ひとりの障がい特性や発達段階を踏まえ、「社会参加と自立」に向けた高等部段階における妥当性の高い指導・支援の検討と充実を図る。

<教務課>

- 1) 新学習指導要領を踏まえた指導要録作成マニュアルを改訂する。
- 2) 教育実習における実習生評価基準の改訂を行う。

<研究課>

- 1) 学習指導要領解説（自立活動編）に示されている個別の指導計画作成の手順を踏まえ、教員間の協議を通して児童生徒の妥当性の高い中心的課題を導き出し、学習内容の設定を行う。
- 2) 児童生徒の実態や中心的課題、指導方法（手立てや場面）を共有し、様々な場面で中心的課題の改善・克服に向けた授業づくりや授業改善を行う。

- ②学校HP、一斉メール、文書、対話等を通して情報を送受信し、学校・家庭・地域や関係機関等との連携を深めるとともに、キャリア教育等の充実を図るなど開かれた教育課程の実現に向けて取り組む。

<小学部>

- 1) 小学部段階におけるキャリア教育について共通理解を図り、合同学習や各学級での実践を行う。
- 2) 学部懇談や学部通信等を活用しながら、学部での取組について紹介、解説し、家庭での取組の参考になるよう促す。

<総務課>

- 1) 学校再開後、学校HPの内容を充実させ、計画的に更新する。
- 2) 学校HP内に「学習支援ページ」を立ち上げ、受信状況を保護者に確認し、各学部と連携して協力を得ながら、開校中・臨時休業中両方の場合に活用できるよう整備する。

- ③特別支援教育のセンター的機能を地域のニーズに即して実践的に発揮し、教育相談や研修等の機会や内容を充実させ、地域や徳島県における特別支援教育への貢献度を高める。

<発達支援センター・特別支援課>

- 1) 特別支援教育に関する教員の専門性の向上を図る。
- 2) 地域の多様なニーズに応える相談・支援機能の充実を図る。
- 3) 地域のニーズに応じた情報提供及び研修協力を行う。

- ④危機管理マニュアルの見直しや教室等学校施設の点検整備の推進、充実を図り、家庭や地域、関係機関等と連携した安全・安心な教育環境を整備するとともに、児童生徒が様々な変化に向き合い、複雑な状況変化の中で他者と協働して課題を解決したり、目的を再構築したりしようとする態度を育成する。

<指導課>

- 1) 危機管理マニュアルの見直しや教室等学校施設の点検整備の推進、充実を図り、家庭や地域、関係機関等と連携した安全・安心な教育環境を整備する。
- 2) 児童生徒が様々な変化に向き合い、複雑な状況変化の中で他者と協働して課題を解決したり、目的を再構築したりしようとする態度を育成する。

令和2年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	中学部			
今年度の重点目標 ①	学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた新しい教育課程の編成、実施及び研究を推進し、生徒の障がいの特性や発達の状態を考慮した適切な指導と必要な支援を充実し、主体的・自立的な児童生徒の育成に努める。			
各部・各課 の重点課題	①基礎的な環境整備と合理的配慮を充実させる。 ②より妥当性の高い中心的課題を生徒個々に設定し、学部教員共通理解の下で教育活動を行う。			
重点課題に対する 具体的な評価指標	①年度当初に、生徒全員に障がい特性把握のためのアセスメントを行うとともに、年間2回以上、個人懇談を実施することで支援の方法を検討し、それぞれの生徒に適切な合理的配慮を行う。 ②-1中心的課題を設定するための支援会議を年間2回以上実施する。生徒の実態や保護者の願い等について共通理解を図りながら、全教員話し合いの下、多角的・多面的に判断し、生徒個々の中心的課題を設定する。 ②-2教員間の日々の情報情報交換を密に行い、中心的課題の妥当性を検討し、必要であれば、見直しを行う。			
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①4月アセスメントを実施する。4月・8月・2月に、個人懇談で保護者から教育的ニーズの聞き取りを行う。必要な環境整備を行う。 ②-14・5月支援会議において、各生徒の「できること」「好きな活動」「課題となること」を全教員で話し合い中心的課題を設定する。中心的課題は自立活動の目標とし、教育活動すべてにおいて取り組む。6月、2月に「将来の自立や地域での生活の様子(保護者が困難と感じていること)についてのアンケートを実施し、自立活動の指導に関連づける。 ②-2情報交換を重ね、長期休業中に中心的課題の妥当性について、話し合いを持ち、中心的課題の見直しを行う。			
実施状況	① 4月・8月の個人懇談で保護者から教育的ニーズを聞き取った。6月アセスメントとして太田ステージ評価を実施した。その結果を指導目標や支援の手立ての決定に活かした。 ②-1 4月、支援会議において学部全教員で話し合い、生徒一人ひとりの中心的課題を設定した。中心的課題は自立活動の目標とした。学校再開後の6月、保護者アンケートを実施した。教員が設定した中心的課題と保護者の願いが合致した。2月保護者アンケートを実施し、成果と課題を確認した。 ②-2 日々情報交換を行う中で、各生徒の中心的課題は妥当であると判断した。保護者の願いとも合致した。目標の達成に向けて手立ての改善を行った。			
評価指標の達成度 及び成果	・実施計画通りに実施した。生徒の障がい特性や生活実態を的確に把握することで、各生徒への合理的配慮がなされ、指導目標が達成された。 ・支援会議で各生徒に妥当性の高い中心的課題を設定することができた。全教員共通理解の下、教育活動全体で取り組むことで生徒の変容が見られた。			
総合評価 (記号を○で囲む)	○A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	・中学部保護者アンケート。・中学部会での協議、保護者との懇談等での情報。 ・個別の教育支援計画・個別の指導計画での評価。			
次年度の 課題	・今年度研究の手法を用い、支援会議において生徒一人ひとりの中心的課題を設定し、その妥当性を高める。 ・全教員共通理解の下、教育活動全体で自立活動の指導に取り組み、家庭生活や地域生活への般化に繋げる。			

スローガン: 協働 毎日やってみよう「しせい あいさつ そうじ くつをそろえる」

令和2年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	高等部
今年度の重点目標 ①	学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた新しい教育課程の編成,実施及び研究を推進し,児童生徒の障がい特性や発達の状態を考慮した適切な指導と必要な支援を充実し,主体的・自立的な児童生徒の育成に努める。
各部・各課 の重点課題	①高等部の学習指導要領改訂を踏まえ,学校研究と関連性を持たせ関係機関との連携を図り強化しながら,生徒の卒業後の社会的・職業的自立を目指して教育課程の検討を行い,実情に即した授業づくりを行う。 ②生徒一人ひとりの障がい特性や発達段階を踏まえ,「自立と社会参加」に向けた高等部段階における妥当性の高い指導・支援の検討と充実を図る。

重点課題に対する 具体的な評価指標	①学校研究を基にし,新学習指導要領全面実施に向けて,「作業学習」の検討と授業改善を進める。 ②外部リソース(大学教授・福祉サービス事業所職員・鴨島病院専門家等)との連携を図るとともに,現在および将来の生活において妥当性の高い指導や支援の在り方について検討する。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①4月:保護者面談を基に生徒一人ひとりのアセスメントを実施する。 5月:ケース会議を実施する。令和2年度高等部研究計画を立案する。 年間1~2回の就業体験(現場実習)を実施し,生徒一人ひとりについての実習評価表に現場実習の評価を受け取る。それを基にして教員間で課題の共有を図る。学部内において作業学習の授業改善を実施する。 ②6月~12月:鴨島病院専門家との連携を図る。 2月~3月:これまでの研究成果と課題について外部リソースからの助言をもとに高等部の教育の在り方について高等部教員で協議を行う。

実施状況	①学部研究会の中で検討した。個別の移行支援計画の書式・運用の見直し,就業体験評価票の活用,作業学習の中で事例研究をとおしての実践を進め,新学習指導要領,キャリア教育,自立活動についての理解を深めることができた。 ②鴨島病院外部専門活用として事例生徒を抽出して助言を頂いた。福祉サービス事業所職員とは,就業体験の際に生徒の課題点等について情報交換を実施した。また,スクールカウンセラーとも定期的に連携をすることができた。また必要に応じて,ケース会議を実施した。			
評価指標の達成度 及び成果	・作業学習で事例に焦点を当てた研究授業及び授業研究会を実施できた。 ・生徒のニーズにあわせ外部リソースを適切に活用することができた。			
総合評価 (記号を○で囲む)	○A	B	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	・高等部教員での協議による。 ・外部リソースとの連携実数による。 ・学校評価に関する保護者アンケート結果による。			
次年度の 課題	・生徒の実態,希望に応じた進路指導の充実。 ・コロナ禍での新しい生活様式に基づいた高等部としての教育活動の充実。 ・HPを活用してICT教育の取り組みを発信する。			

令和2年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	教務課
今年度の重点目標 ①	学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた新しい教育課程の編成、実施及び研究を推進し、児童生徒の障がいの特性や発達の状態を考慮した適切な指導と必要な支援を充実し、主体的・自立的な児童生徒の育成に努める。
各部・各課 の重点課題	①新学習指導要領を踏まえた指導要録作成マニュアルを改訂する。 ②教育実習における実習生評価基準の改訂を行う。

重点課題に対する 具体的な評価指標	<p>①-1新学習指導要領の基本的な考え方や改善事項について確認し、指導要録作成マニュアルの改訂への検討を教務課会等で年間2回程度行い、指導要録作成マニュアルを改訂する。</p> <p>①-2学習評価及び指導要録作成にあたっての配慮事項・マニュアルを周知し、適切に実施できるよう努める。</p> <p>②-1教育実習の実習生評価基準の改訂への検討を、8月の校内研修までに4回程度行い、改訂版を作成する。</p> <p>②-2校内研修で、実習生評価基準の改訂版を周知する。</p>
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<p>4～5月: ①新学習指導要領に対応した指導要録作成のための資料収集 ②教育実習生評価基準についての検討・協議</p> <p>6～9月: ①指導要録作成及び学習評価についての配慮事項を検討・協議 ②教育実習生評価基準の改訂版作成及び周知</p> <p>10～1月: ①協議に基づく指導要録作成マニュアル及び評価についての配慮事項のまとめを作成 ②教育実習評価基準の改訂版について実施後調査の実施</p>

実施状況	<p>①-1 新学習指導要領の基本的な考え方や改善事項について課でポイントを整理したものを校内に回覧して周知した。指導要録作成マニュアルの改訂への検討を実施し、主に評価の記入方法について改訂した。マニュアルの改訂版完成に向けて作業中である。</p> <p>①-2 新学習指導要領に沿った学習評価及び指導要録作成にあたっての配慮事項・マニュアル作成に向けて整備中である。</p> <p>②-1 教育実習の実習生評価基準の改訂に向けて校内の意見を取り入れながら検討会を4回以上行い、改訂版を作成した。</p> <p>②-2 校内研修で、実習生評価基準の改訂版を配付して周知した。</p>								
評価指標の達成度 及び成果	<ul style="list-style-type: none"> ・指導要録作成マニュアル改訂へ向けて、校務課会で時間をかけて2回以上検討した。 ・改訂した指導要録作成マニュアルを全教員に回覧して周知した。 ・教育実習の実習生評価基準の改訂のための会議を4回以上実施した。 ・校内研修で実習生評価基準を改訂したものを配付して周知した。 								
総合評価 (記号を○で囲む)	<table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">Ⓐ</td> <td style="width: 25%;">B</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>70～79%</td> <td>50～69%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	Ⓐ	B	C	D	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
Ⓐ	B	C	D						
80%以上	70～79%	50～69%	49%以下						
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・校務課会（教務課）会議録 ・指導要録作成マニュアル改訂版 ・実習生評価基準の改訂版及び研修資料 								
次年度の 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の評価の記述内容の見直しを行う。 ・指導要録の保管方法を様式の変更に応じて検討する。 								

令和2年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	研究課			
今年度の重点目標 ①	学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた新しい教育課程の編成、実施及び研究を推進し、児童生徒の障がいの特性や発達の状態を考慮した適切な指導と必要な支援を充実し、主体的・自立的な児童生徒の育成に努める。			
各部・各課 の重点課題	①学習指導要領解説（自立活動編）に示されている個別の指導計画作成の手順を踏まえ、教員間の協議を通して児童生徒の妥当性の高い中心的課題を導き出し、学習内容の設定を行う。 ②児童生徒の実態や中心的課題，指導方法（手立てや場面）を共有し，様々な場面で中心的課題の改善・克服に向けた授業づくりや授業改善を行う。			
重点課題に対する 具体的な評価指標	①-1 自立活動について各学部の取り組みを確認するための学部研究会を実施する。 ①-2 支援会議等を通して，学部教員全員が，児童生徒の実態や将来像を共通理解し，中心的課題を導き出し，妥当性の高い自立活動の指導目標を設定する。 ②自立活動の視点を踏まえた授業について，全体授業研究会を各学部1回以上実施して協議を行い，児童生徒に応じた目標や支援方法等を評価し，授業改善を図る。			
実施計画 (手だて・スケジュール等)	・全体研究会，企画運営委員会，研究運営会議等を通して研究の進め方等について協議し，共通理解を図っていく。 4～6月：自立活動について各学部の取り組みを確認するための学部研究会を実施する。各学部で，児童生徒の実態や将来像を共通理解し，中心的課題を導き出し，妥当性の高い自立活動の指導目標を設定するための支援会議等を開催する。 6～12月：各学部で対象児童生徒を決め，中心的課題の改善，克服に向けた授業を実施する。11～12月には各学部毎に全体授業研究会を実施する。 11～1月：研究紀要の執筆を行う。実践した取組についての成果と課題をまとめる。 2月：研究発表会を開催し，今年度の成果や課題等の発表を行う。研究紀要を発行する。 3月：3年間の研究の成果と課題をまとめる。次年度の研究に向けてアンケートを実施する。			
実施状況	①-1 自立活動について各学部の取り組みを確認するための学部研究会を実施することができた。実施内容を全体研究会を通して全校で共有することができた。 ①-2 学部研究会や支援会議等を通して，学部教員全員が，児童生徒の実態や中心的課題を共通理解し，妥当性の高い中心的課題を導き出し，自立活動の指導目標を設定することができた。 ②自立活動の視点を踏まえた授業について，中・高等部は研究授業と授業研究会を1回ずつ実施することができた。小学部については研究実践についてクラス毎に報告会を実施した。これらを通じて児童生徒に応じた目標や支援方法等を評価し，授業改善につなげることができた。			
評価指標の達成度 及び成果	・ほぼ実施計画通りに実施することができた。3年間の研究成果をまとめ，研究紀要の発行やオンラインによる新しい形式での研究発表会を開催することができた。 ・3月に実施する予定であった次年度の研究についてのアンケートに代わり，12月に実施した全体研究会を通して，各教員がどのような研究に取り組みたいのかについて意見を出し合い，集約することができた。			
総合評価 (記号を○で囲む)	○A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	・全体研究会資料，学部研究会記録，研究紀要第45号 ・学部研究会記録，自立活動における指導内容設定表 ・各学部研究授業指導案，全体授業研究会記録，小学部研究実践報告資料			
次年度の 課題	・研究結果を踏まえた，新たな研究主題の設定を行う。 ・研究主題の視点を踏まえた研究授業，授業研究会の実施 ・公開授業研究会の開催方法や研究成果の発信方法の検討			

スローガン： 協働 毎日やってみよう「しせい あいさつ そうじ くつをそろえる」

令和2年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	小学部
今年度の重点目標 ②	学校HP, 一斉メール, 文書, 対話等を通して情報を送受信し, 学校・家庭・地域や関係機関等との連携を深めるとともに, キャリア教育等の充実を図るなど開かれた教育課程の実現に向けて取り組む。
各部・各課 の重点課題	①小学部段階におけるキャリア教育について共通理解を図り, 合同学習や各学級での実践を行う。 ②学部懇談や学部通信等を活用しながら, 学部での取組について紹介, 解説し, 家庭での取組の参考になるよう促す。

重点課題に対する 具体的な評価指標	①-1 学部会等で小学部段階でのキャリア教育について共通理解を図る。 ①-2 特に重要となる項目については合同学習で実施し, 児童に伝える。 ①-3 各学級では個々の児童に応じた目標や活動を設定して, 実践を行う。 ②これらの取組について, 学部懇談や学部通信等で保護者に周知する。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	・4～6月: 学部会等でキャリア教育についての研修や共通理解を図る。 ・7～2月: 重要となる項目について, 合同学習で取り上げて授業実践を行う。その内容について各学級で児童の実態に応じて深める。 ・8月, 2月: 中間評価(8月)や総括的評価(2月)を行い, 改善案を検討しながら授業実践につなげる。 ・3月: 本年度の取組について, 次年度の年間計画等に反映させる。

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の全体計画(小学部の目標)の作成, 小学部段階でのキャリア教育について, 資料を用いて教員間での共通理解を図った。 ・合同学習(生活単元学習)を基にしながら, 学年(学級)に合わせたねらいや活動を検討した。特に役割分担については, 生活年齢を基盤にしながら低学年から中学年, 高学年へと系統立てたねらいを設定した。 ・合同学習で行ったことを各学級で再度授業で取り上げたり, 各学級で準備したことを合同学習で発表したりと, 生活単元学習を基盤としながら学部と学級で関連付けた実践ができた。 ・これらの取組やキャリア教育について, 小学部通信(約月1回ペース)で保護者に説明したり, 実践を紹介したりした。 			
評価指標の達成度 及び成果	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部のキャリア教育目標を学部教員で共通理解を図った。生活単元学習を基盤として, 各学年(学級)に応じた学習活動を設定し, 合同学習で役割を果たすような授業展開を行った。 ・小学部段階でのキャリア教育や生活単元学習(小学部合同学習, 各学級)でのねらいや実践等を学部通信を通じて保護者に説明や紹介をした。 			
総合評価 (記号を○で囲む)	○A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・本校キャリア教育の全体計画(小学部) ・小学部合同学習(生活単元学習)年間指導計画 ・授業実践 ・小学部通信 ・学校評価アンケート 			
次年度の 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育に関しての理解を深め, 実践につなげるための取組 ・継続的な保護者への説明(内容や方法の工夫) 			

令和2年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	総務課			
今年度の重点目標 ②	学校HP, 一斉メール, 文書, 対話等を通して情報を送受信し, 学校・家庭・地域や関係機関等との連携を深めるとともに, キャリア教育等の充実を図るなど開かれた教育課程の実現に向けて取り組む。			
各部・各課 の重点課題	①学校再開後, 学校HPの内容を充実させ, 計画的に更新する。 ②学校HP内に「学習支援ページ」を立ち上げ, 受信状況を保護者に確認し, 各学部と連携して協力を得ながら, 開校中・臨時休業中両方の場合に活用できるように整備する。			
重点課題に対する 具体的な評価指標	①総務課会を月2回程度実施し, 学校HPや「学習支援ページ」について話し合う機会を設ける。 ②学校HP更新案を基に, 各学部や教科グループの情報を毎月更新する。 ③年度末の学校評価アンケートにおいて, 60%以上の満足度を得る。			
実施計画 (手だて・スケジュール等)	4～5月: 管理職と相談をしながら, 「学習支援ページ」の運用を立案し, 校務課会で共通理解を図る。保護者に動画の受信状況のアンケートを実施し, 運用を見直して検討する。また, 学校再開後の学校HPに掲載する内容や更新時期について, 昨年度末の案を校務課会で再検討する。 6～2月: 学校再開後は, 学校HPや「学習支援ページ」に, タイムリーな情報が上げられるよう, 各学部と連携して協力を得ながら更新を随時行う。 10月, 2月: 中間評価(保護者アンケート)や総括的評価(学校評価アンケート)を行う。 3月: 本年度の取組について教員にアンケートを実施し, 次年度の学校HP運用等に反映する。			
実施状況	①課会にて, 「学習支援ページ」の整備や本校HPの更新計画について協議できた。周知についての改善策についても協議した。 ②行事の変更を踏まえて, 年度当初の更新計画を課員で見直し, 各学部での行事の様子を偏りなく更新した。また, 動画の受信状況のアンケートを実施したうえで, 「学習支援ページ」をほぼ毎月更新した。 ③学校HPやICT教育に関するアンケートについて, 昨年度の様式を基に, 質問項目を課員で検討・改善した。教員, 保護者ともに10月にアンケートを実施した。その結果を課会にて共通理解し, ②の協議内容とも合わせて学校HPの改善案を立案した。学校評価アンケートにより, 満足度を把握できた。			
評価指標の達成度 及び成果	・総務課会を月2回程度実施し, 学校HPや「学習支援ページ」について話し合うことができた。 ・学校HP更新案を基に, 変更に応じて見直しつつ, 各学部や教科グループの情報を毎月更新することができた。 ・学期末の学校評価アンケートにおいて, 開かれた学校作りの保護者満足度は96%であった。			
総合評価 (記号を○で囲む)	○A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	保護者や教員対象の学校評価アンケートの満足度結果や, 教員アンケート, 及び課会記録による。			
次年度の 課題	○学校ホームページの内容及び更新の方法を次のように取り組みたい。 ・児童生徒の作品ページの項目を追加する。 ・保護者により広くHPの更新を周知するために, 周知の方法を検討する。 ・保護者が更新を知る目安として, 月末に翌月の行事カレンダーを更新することを周知しHPを開くきっかけとなるようにする。 ○GIGAスクール事業の始動にあたり, ICT教育の充実に向けて次のように取り組みたい。 ・まずは校内で, 教職員がICT機器を活用できるように整備に取り組む。			

スローガン: 協働 毎日やってみよう「しせい あいさつ そうじ くつをそろえる」

令和2年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	特別支援課・発達支援センター
今年度の重点目標 ③	特別支援教育のセンター的機能を地域のニーズに即して実践的に発揮し、教育相談や研修等の機会や内容を充実させ、地域や徳島県における特別支援教育への貢献度を高める。
各部・各課 の重点課題	①特別支援教育に関する教員の専門性の向上を図る。 ②地域の多様なニーズに応える相談・支援機能の充実を図る。 ③地域のニーズに応じた情報提供及び研修協力を行う。

重点課題に対する 具体的な評価指標	①校内研修会の企画立案や外部専門家（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）による児童生徒への「コンサルテーション」を10回以上実施する。 ②巡回相談員による訪問型及び来校型の教育相談・直接指導等の地域支援を年間150回程度実施する。 ③障がい特性や支援方法に関する情報提供や研修会講師等を年間15回程度行う。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①児童生徒の実態や障がい特性から支援のニーズを把握するとともに、年度当初には研修会を実施し、「コンサルテーション」を充実させる。また、成果報告会は12月に実施し、学校全体で専門性の向上を図る。 ②③各学校園及び徳島県立総合教育センター特別支援・相談課、徳島市教育研究所、徳島市子ども施設課等との連携を密にし、支援の必要性が高い事案について情報交換、相談支援を行う。

実施状況	①センター的機能、発達検査の概要についての校内研修会を実施し、教員の専門性向上に努めた。外部専門家による校内支援を10回実施し、成果をWEB上で共有した。 ②相談支援等を192回(2月末時点)実施した。また7名の児童生徒に対してのべ23回の直接指導(教育課程外の通級的な指導)を実施した。 ③研修会講師依頼は3件であったが、巡回相談の場を活用し資料や情報の提供及び教材の紹介・貸し出しを積極的に行った。								
評価指標の達成度 及び成果	<ul style="list-style-type: none"> ・評価指標を達成した。研修の企画立案や外部専門家との連携を通じて校内教員の専門性向上に寄与できた。 ・評価指標を達成した。児童生徒への直接指導では、発達支援センターが所有する教材や書籍及び本校の指導事例を活用できた。 ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、当初予定されていた研修会が中止になるなど実施回数は減少した。地域の学校園の教育的ニーズに対応すると共に、県立特別支援学校の補完的な役割を果たすことにより、地域へ貢献することができた。 								
総合評価 (記号を○で囲む)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 25%;">○A</td> <td style="text-align: center; width: 25%;">B</td> <td style="text-align: center; width: 25%;">C</td> <td style="text-align: center; width: 25%;">D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">80%以上</td> <td style="text-align: center;">70～79%</td> <td style="text-align: center;">50～69%</td> <td style="text-align: center;">49%以下</td> </tr> </table>	○A	B	C	D	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
○A	B	C	D						
80%以上	70～79%	50～69%	49%以下						
評価根拠	徳島市教育支援委員会委員、徳島市障害児保育運営委員会委員、鳴門市教育支援委員会調査員を委嘱された。また、徳島県立総合教育センター特別支援・相談課からの検査依頼など、本校が位置する地域における特別支援教育のネットワーク構築に貢献した。								
次年度の 課題	本年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、地域におけるセンター的機能の1つである夏季公開研修会の中止を余儀なくされた。次年度は、オンライン開催など運営方法を工夫することにより、地域の学校園の教育的ニーズに応えられるよう検討したい。								

令和2年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	指導課
今年度の重点目標 ④	危機管理マニュアルの見直しや教室等学校施設の点検整備の推進，充実を図り，家庭や地域，関係機関等と連携した安全・安心な教育環境を整備するとともに，児童生徒が様々な変化に向き合い，複雑な状況変化の中で他者と協働して課題を解決したり，目的を再構築したりしようとする態度を育成する。
各部・各課 の重点課題	①危機管理マニュアルの見直しを行い，家庭や地域，関係機関等と連携した安全・安心な教育環境を整備する。 ②児童生徒が様々な変化に向き合い，複雑な状況変化の中で他者と協働して課題を解決したり，目的を再構築したりしようとする態度を育成する。

重点課題に対する 具体的な評価指標	①-1 危機管理マニュアルの見直しを行う。 ①-2 家庭にむけて防災だよりを発行し，訓練の様子を伝える。 ①-3 南海トラフ地震について地域の方を講師に招き，知見や助言を得る。 ①-4 非常時にどうすればよいかを発達段階に応じて伝え，実践できるよう支援する。 ②児童生徒会を中心に，児童生徒が協力して活動する機会をもつ。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①-1 緊急捜索時のマニュアルの見直しを行う。(5月) ①-2 家庭にむけて防災だよりを発行する。(6月・11月) ①-3 地震津波避難訓練の前に，地域の防災リーダーの話を伺う機会をもつ。 ①-4 訓練の前に，課題や目的を伝え，主体的に行動しようとする態度を育てる。(スクールバス避難訓練・地震津波避難訓練) ②児童生徒会が全校朝会や朝の放送を運営する。

実施状況	①-1 緊急捜索時のマニュアルの見直しを行った。(5月) ①-2 家庭にむけて学校安全だよりを発行した。(6月・12月) ①-3 地震津波避難訓練後になったが，地域の防災リーダー(渭北公民館長・渭北自主防災会連絡協議会会長)の話を聞く機会をもつことができた。 ①-4 訓練の前に，課題や目的を伝え，主体的に行動できるよう支援できた。(スクールバス避難訓練・地震津波避難訓練) ②児童生徒会が協力して全校朝会や朝の放送を運営できた。								
評価指標の達成度 及び成果	・訓練や研修を継続して実施していることにより，学校全体として取り組む体制が維持され，教職員の防災に関する意識の高まりが見られる。 ・指導課会で検討したことを各学部以降ろして再度諮ったり，また学部から上げられた意見を課会やワキンググループ内で検討することにより，児童生徒の実態に則した実施計画を立てることができた。								
総合評価 (記号を○で囲む)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%; text-align: center;">A</th> <th style="width: 25%; text-align: center;">B</th> <th style="width: 25%; text-align: center;">C</th> <th style="width: 25%; text-align: center;">D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">80%以上</td> <td style="text-align: center;">70～79%</td> <td style="text-align: center;">50～69%</td> <td style="text-align: center;">49%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
A	B	C	D						
80%以上	70～79%	50～69%	49%以下						
評価根拠	・各訓練等の事後アンケートの結果や各部教員への聞き取りによる。 ・年間計画に沿った訓練等の実施状況(回数)による。 ・保護者アンケート結果の肯定的評価の数値向上による。								
次年度の 課題	・防災や安全教育に関する年間計画を改善し，着実に取り組む。 ・防災や安全教育に関する教職員の意識をさらに高める。 ・児童生徒の一人でもたは協働で課題を乗り越えるための体力や技能の向上を図る。 ・コロナ禍に対応した児童生徒会活動の実践を進める。								

スローガン: 協働 毎日やってみよう「しせい あいさつ そうじ くつをそろえよう」